



②精神的発達とももの世界との関わり

『食事のお手伝い』

にこにこ組に進級し、新しい環境やお友達と変化も多く、不安や緊張が入り混じっていました。

お喋りは上手になってきたけれど、そんな複雑な気持ちを子ども達が言葉にして表現することはまだまだ難しかったこの時期。

にこにこ組の生活が子ども達にとって過ごしやすく、もっと心地よい場所になれたらという思いもあって・・・先生のお手伝いを取り入れていきました。



「身体的な側面」

スプーン、フォークを並べたり、お茶を入れたり・・・

食事のお手伝いをするにも、必要な力がたくさんあります。コップからお茶が溢れないようにちょうどいいタイミングでキーパーの栓を離して、量を調整したり。

お茶を運ぶときにも慎重にそっと。

机や椅子を避けながら、運ぶバランス力も必要です。

そのような子ども達にとって少し難しいことが、やってみたいという意欲に繋がっていたようです。



「精神的な側面」

一緒にお手伝いをしていると、お友達が終わるのを待ってあげたり、お友達が出来る分を残してあげたり・・・気持ちの調整が必要な場面もありました。

人数が増えてくると、「〇〇ちゃんがスプーンやる」「△△ちゃんも～」とお互いに言い合いになってしまうこともありました・・・

大人は、「こういうのはどう？」と提案はしても、できるだけ子ども達同士で納得できる形を見つけていけるようにしていきました。



お手伝いを通して、お友達とやりとりをする中で少しずつお友達のことを知り、お友達のことを考えたりするきっかけになっていました。また、お友達のためにお茶を運んだり、食具を準備したりする中で自分の居場所がにこにこ組にあるんだと少しずつ感じていくきっかけになったと感じます。

誰が何を準備をするのか
食事が始まる随分前から相談中。
子ども達にとっては楽しいお仕事
になっていたようです。

8月頃になると・・・

「〇〇ちゃんはお茶をいれるね」「半分ずつやろう」と子ども達と一緒に出来る方法を提案しながら折り合う姿も見られるようになっていました。

そんなふうにご飯のお手伝いをしていくと、「〇〇ちゃんはお茶たくさん飲むよね?」「少なめがいいかな?」とお友達が飲む量にも気にかけて、淹れてあげていました。お友達を思いやる気持ちに嬉しくなりました。

